

俺の名前は青木清。探偵だ。

久地に探偵事務所を構えているが、最近めっきり仕事が減った。

だが、ある男との会話で新たな仕事が舞い込んだ。



聞き込み中の探偵 青木清

夜10時を過ぎた頃、俺はいつもの店に入った。昼は喫茶で夜はビールを出す「太郎と花子」って店だ。

7人掛けのカウンターに、いつもの男が座っている。瓶ビール飲みながら、タバコをふかし、テレビを見ている。俺とは4、5年前からの付き合いで、IT企業のサラリーマンをやっている。俺は男のことを「クマ」と呼んでいる。

俺は瓶ビールを注文した。

クマによれば、2009年5月に立ち上げた「久地アバウト」って言うWEBサイトで新企画をやりたいらしい。世間で言う地域サイトっていうのは、商店街を盛り上げたり、街のイベントを紹介したりするのが王道なんだと。そこで、久地アバウトでも行きつけの店やらなんやらを記事にして掲載したいと。それからこんなことも言っていた。探偵の俺に取材活動とハードボイルドな記事を書いてほしいと。

仕方ねえ、クマは息子みたいなもんだから、依頼を受けてやるさ。

夜も11時を過ぎ、俺も眠くなってきた。クマに今夜は帰る旨を伝え、店を後にした。

ほろ酔いの心地よい疲れで、ため息をひとつ吐いた。白い息は、師走の星空に向かって溶けていった。